

「終わりよければ」いせの会 会報53

平成25年3月12日版

電話 0596・63・5226

ファクス 0596・63・5236

2月13日定例懇談会の報告

年間の計画に関して論議

- いせの会は、生死の問題を率直に語る大切な機会として今後も続ける。
- 今年は遷宮もあり会独自の催しは困難。チャンスを生かす取り組みを試みる。

テーマを考え直すとしたら

- 高齢少子社会の中、伊勢地域のつながりをどうするか具体的に考える。
- 多死社会の一面だけに目を奪われない。
- 20年後の伊勢へ継続可能な事を提示
- いせの会の会費を集めるとしたら(方法論)
- エンディングノート改訂する資料代
- 地域情報資料集をつくるカンパとして
- 目標を持った金額設定してはどうか？

気になる地域の話題として

- 伊勢病院の建て替えは、病院の問題ではなく、地域医療の再構成の問題

● 「今後の市立伊勢総合病院を考える検討会」の指摘は組み込まれたか？

- 伊勢病院の急性期医療や救急体制充実が可能になる条件があるのか？

- むしろ、介護や在宅生活、つまり地域を支える視点が求められるのでは？

- いせの会として、地域のつながり再生の視点をまとめる必要はないか？

- 今回の伊勢病院のパブリックコメントと重ねられないか！(×切28日)

↓2月22日に臨時に意見交換会をして、パブリックコメント(会報52号)の内容とし、28日午前に提出しています。

この先1年の、いせの会の提案ですよ

1. 定期的な市民の意見交換の場を提供

定期的な例会・懇談会などを縁の家だけではなく、地域の適宜の場所でも開く夜だけではなく、昼間や祝休日も考える互いに知り合いを紹介するスタイルを

2. 医療やケアの地域情報を市民に還元

ハンドブックを作成

求められる情報を絞り込む(年間計画)どのように集めるかを話し合う

きちんとした形で出版する

3. 市民向け勉強会や講演会を催す軸に

エンディングノートなどの継続テーマで自主連続講座をする

数年にわたる企画で呼びたい講師を構想

4. 世代を超えた「死の教育」の場を

元気な老人会などへ働きかける

5. 市民のための緩和ケアの充実を

地域から見た緩和ケアの実情パンフ作成
がん相談支援センターと連携、情報更新
地域としての在宅ホスピス活動を考える

6. その他(会員からの提起を受けて)

「母さんの家」など他地域の活動を見学する機会を作る(団体として)

会費会員制での活動の骨組みを考える
行政や病院との繋がりを模索する

8月24日(土)伊勢に来訪される講談師の田辺鶴英さんの「介護講談」を開く企画をしませんかとの呼びかけあり。

↓認知症介護の理解が進む内容です。おススメです。以上を22日に論議しましょう。

「終わりよければ」いせの会の次回定例会
3月22日(金) 19時からに変更。

3月13日ではありません、ご注意ください！